

令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 片柳中学校) 学校番号 232

目指す学校像	「地域から信頼され、地域とともに歩み、生徒・教職員一人ひとりの自己実現・Well-being が図れる学校」
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 非認知能力も含めた真の学力の向上。 2 安心・安全な環境の下、心豊かな生徒の育成。 3 コミュニティースクールを核とした地域と一体となった教育活動の展開。 4 持続可能な新しい学校の在り方を求める教職員の育成
------	---

年 度 目 標

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和5年全国学力・学習状況調査では、国語、数学、英語共に正答率は全国平均にあと少しのところである。 ○授業中多くの生徒は真面目に取り組んでいるが、教科や内容によって個人差が大きい。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果から国語は漢字、古典に関する事項にやや課題が見られる。数学は図形にやや課題が見られる。英語は情報の読み取り、書くことにやや課題が見られる。 ○学校評価「授業でできた、わかったという実感が持てたか」が低下傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市学力テスト市学習状況調査結果(質問紙の結果も含む) ・情報活用能力と読解力の向上 ・学ぶ意味と楽しさを実感させているか ・実社会の出来事に関心を持ち、探究的活動に取り組んでいるか 	<ol style="list-style-type: none"> ①朝学習の充実とスタディサプリやドリルパーク等の情報端末を活用した基礎学力の向上、全教科単元末テストを実施し、日々の家庭学習の充実を図る。(個別最適な学び) ②様々な情報を収集し内容を吟味し、要約したり、説明したりすることに全教科等で取り組む。(NIE教育の推進, よむ yomu ワークシートの活用) 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価「授業でできた、わかったという実感が持てたか」95%以上。 ②学校評価「家庭学習をしていますか」80%以上。 ③学びの指標「ICTの活用」3.2以上。 ④学校評価「学校はICTを授業で活用していますか」85%以上。
2	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和5年全国学力・学習状況調査、質問紙「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「自分にはよいところがある」肯定的回答は全国平均を10P以上上回っている。 ○学校評価生徒アンケート「生活の決まりを守って学校生活を送っている」肯定的回答97%。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和5年全国学力・学習状況調査「将来の夢や目標を持っていますか(肯定的回答は全国より2P下回る)」 ○不登校傾向生徒の増加、心の不安を訴える生徒の増加。アンケート調査だけでなく平日頃からの声掛け、注意深い観察、教職員同士の密な情報共有、関係機関との日常的連携が必要な状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動、学校行事等体験的活動の充実により、自己決定の場を多く設定できているか。 ・生徒一人ひとりに寄り添い、大切にする教育支援がなされているか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業や学級会、生徒会活動で自己決定場面を多く設定し、生徒の自己肯定感や自己効力感を高める。 ②企業も含め様々な分野から社会人講師を招聘しキャリア発達を促す体験的活動を多く実施し、将来への夢や展望を持たせる。(未来くるワーク、未来くる先生、片柳エンジン等) ③①②を通し好奇心、創造性、協調性等、非認知能力の育成を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価生徒アンケート「学校行事に積極的に取り組んでいますか」95%以上。 ②学校評価生徒アンケート「仲間のよさを理解し、お互いを認め合っている」98%以上 ③市学習状況調査「将来の夢や目標を持っていますか」70%以上。
3	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会で役割分担を実施し、地域と学校ができることを検討。委員と生徒との意見交換を実施。 ○学校評価生徒アンケート「ボランティア活動に参加したことがありますか」肯定的回答88% <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中のシステムや立地の違いによる物理的な課題が継続している。 ○土日の部活動地域移行が実施されたことで生まれた課題の整理と解決策の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校に向けて小中一貫教育のさらなる推進がなされているか。 ・部活動地域移行に関する課題が解決されたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①夏季合同研修会、週1~2回の中学校教員の派遣や授業参観、児童・生徒間交流を推進。 ②総合的な学習の内容として地域ボランティアを位置づけ、地域貢献に関する学習活動を実施。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会委員と生徒との意見交換で生まれた行事等の着実な実施。 ②学校評価生徒アンケート「今年度ボランティア活動に参加したことがありますか」95%以上。 ③学校評価保護者「学校は地域と一体となって教育活動を進めていますか」90%以上。
4	<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革への理解は進んできた。しかし、授業スタイルや行事の抜本的見直しなど、新しい発想の下での改革・改善には至っていない。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒主体の指導観、評価観への転換。教えるから支援、ファシリテーターへ。 ○ICTを活用し個別最適な学びや協働的な学びの一体化について学ぶ時間の確保。 ○業務のより一層の効率化、軽減が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育情報の収集に努めているか。 ・業務のより一層の効率化と削減が図られているか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①全国的な研究会や講演等へのオンラインも含め積極的な参加。最新の教育情報収集し、自己研鑽するための時間の確保。 ②ICT活用により業務の効率化を図る。 ③一層のペーパーレス化、ICT活用による会議の効率化と時間短縮、計画的年休や定時退勤日の確実な実施。 	<ol style="list-style-type: none"> ①教職員人事評価、研修に関する自己評価Aの教職員が50%以上。 ②教育課程の改善について教職員学校評価で肯定的回答80%以上。 ③印刷関係用品の使用量(用紙、インク、マスター等)の20%以上の削減。 ④全教職員平均年休取得率70%以上。